

令和2年度草津市スポーツ推進審議会 議事要旨

■日時

令和2年6月29日（月）19時00分～21時00分

■場所

草津市役所6階 教育委員会室

■出席委員：

岡本委員、京近委員、姫野委員、小傳良委員、北川委員、古川委員、嘉悦委員、
中西委員、高岡委員

■欠席委員：

速見委員

■事務局：

川那邊教育長、居川教育部長、南川教育部副部長、
スポーツ保健課 織田課長、古野課長補佐、北野係長、谷口主査、田平主任
スポーツ大会推進室 藤崎室長

■傍聴者：

0名

1. 開会

【川那邊教育長】

本日は、大変お忙しい中、草津市スポーツ推進審議会にご出席を賜りありがとうございます。

平素から、委員の皆様方には、本市の教育行政、とりわけスポーツ推進に向けてそれぞれの立場でご尽力を賜り感謝申し上げます。

新型コロナウイルスの影響がやっと正常に戻りつつあるという状況かと思いますが、体育施設も休館となるなど市民の皆さんには大変ご迷惑をおかけし、また、スポーツができないストレスを抱えられたかと思えます。子どもたちも家にいる時間が長くなり、時には空き地でスポーツを楽しむ姿が見られましたが、それを見た方から一部苦情を頂くなど大変厳しい局面がございました。

そのような中、立命館大学のスポーツ健康科学部と小学校体育連盟、教育委員会が力をあわせて作成した「体力向上プロジェクト」体操で、小学校の体育主任が1週間分のプログラムを動画撮影し、市のYouTube「うちでチャレンジ！」で発信しました。かなり早い段階での発信であったため注目を浴び、アクセス数も大変多く好評でした。これも、草津市スポーツ行政が充実しており、連携ができているからだと改めて感じ、うれしく思っております。これまで皆様方のお力添えで、市のスポーツ推進の評価が高いように感じておりますし、皆

様の御努力に心から感謝を申し上げます。

国や県でもスポーツにかかる第2期の計画が策定され、滋賀県でも国スポ・障スポを控えております。さらに、市では教育振興基本計画の第3期が始まり、健幸都市基本計画の取組も進められております。第2期スポーツ推進計画においても、草津の強みを生かしたものにしたいと考えておりますので、皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

2. 委員自己紹介

3. 審議会の位置づけ、公開について

別紙3、別紙4に基づき説明

4. 諮問

5. 審議案件

【委員長】

いよいよ学校も動き出すということですが、大学は7月末までWEB授業となり、後期も大講義はWEBと対面のハイブリッドという形での開催を議論されているところです。大学のスポーツ大会もかなり縮小した形での開催となり、これまでと違った試合方式に変更するなど、各競技団体が苦慮している状況です。

先ほどの教育長のご挨拶において、市の体育教諭が作成した動画がWEBで公開され、注目をあびているという話がありましたが、この話を聞いて感じたのは、これまで主要教科は宿題を出すのを当たり前でしたが、体育は宿題を出すということがなかったかと思います。コロナの影響で体育も宿題を出してもいいんだと。家でトレーニングをして、先生方が評価していてもいいということ、今回のコロナ禍の中で学んだかと思います。

運動というのは、汗をかくようなハードなものというイメージでしたが、ちょっとした軽運動も運動に含むというのをアンケート調査の中でうまく示すことができればと思います。

そのあたりも視点に入れていただき、後のアンケート調査の議論の中で、ご意見をいただければと思います。

(1) 第2次草津市スポーツ推進計画の策定について

①第1期草津市スポーツ推進計画の取組や評価について

【事務局】

資料2に基づき説明

➤ **基本方針1 子どもの体力向上とスポーツ活動の推進**

【委員】

体育授業の充実や立命館大学との連携により、体育の授業力も上がってきており、その結果、草津市の小学生の体力は全国平均に近づき、男子は上回っている。引き続き、小学校の体育の授業の推進をしっかりとやっていければと考えている。

【委員長】

滋賀県の女子の新体力テストの数値は全国平均を下回っている。草津市の女子の数値は滋賀県平均よりは高いので、滋賀県をリードしていると言い切ってもいいのではないかな。

➤ **基本方針2 生涯スポーツ活動の推進**

【委員長】

成人のスポーツ実施率の国の目標値が65%以上と高い値となっているが、県内各市町の状況を確認したところ、ほとんどが55%前後である。

【委員】

草津市の数値は全国的には上のほうなのか。

【委員長】

全国的にもほとんどが55%前後となっているようだ。

【委員】

今後の取組として、30代から40代のスポーツ実施率を上げることが重要とあるが、この年代は仕事や子育てが忙しく、スポーツする機会が減る年代であり、この年代の実施率をあげるのはなかなか難しいのではないかな。

【委員長】

高齢者の実施率を今以上に増やすのは難しいのか。

【委員】

各学区において民生委員がサロンで生涯スポーツプログラムに取り組んでいる。そういったものもスポーツの実施率にカウントできているのか。

【事務局】

全世代を対象に運動やスポーツを実施しているかというアンケートを実施しているが、回答者が簡単な運動を果たして運動と捉えているのかという議論があるので、そのあたりはアンケート調査で答えやすいような工夫が必要であると考えている。

【委員】

50代や60代から運動を始めていると、体力貯金ができており、80歳を過ぎても運動できる。ただ、新型コロナウイルスの影響で3か月も運動を休むとやはり足腰の筋力が衰える。集まってみんなで運動することは出来ても、家で一人で努力するのはなかなか難しい。運動再開後も、高齢者本人も動けるかどうか心配されていたが、身体が覚えているので、再

開後もしっかり動くことが出来ている。運動を続けることは重要だと感じた。

【委員長】

30代～40代のスポーツ実施率をどう上げていくかが課題であるが、草津市の場合は県外に働きに出ている方も多いため、通勤に時間をとられ、運動時間の確保が難しい。週1回30分以上というスポーツの考え方をどう定義するのか。継続とするのか、トータル30分とするのか。また、スポーツではなく、運動という言葉で質問をするなど、質問の仕方にも工夫が求められる。また、こういった質問することで、運動することへの意識付けにもなるのではと思う。

➤ **基本方針3 地域コミュニティによるスポーツの推進**

【委員】

総合型地域スポーツクラブの支援の成果として、「2名分の人件費補助を行い、クラブ運営体制を強化し、活動の促進につなげた」と書かれているが、そのあたりのバランスが難しいところである。くさつ健・交クラブでは、ボランティアに交通費程度の薄謝しか出しておらず、事務局の人件費が高額であるイメージがあり、ボランティアがひけているように見受けられる。

【事務局】

少し補足をさせていただくと、くさつ健・交クラブは総合型スポーツクラブで市域全体をカバーしてサークル活動や教室等を実施しており、それとは別に学区ごとのスポーツクラブがある。くさつ健・交クラブでは、担い手が高齢化しており事務局を維持していくことが難しい状況にある。一方で、年間延べ2万人から3万人の方が活動されていることは財産であるので、市のOBを配置するなど、今後どう運営していくかについて、市内部でも議論しているところである。

【委員長】

新型コロナウイルスの関係で、イベントの開催ができていない状況であるが、今後少しずつ復活する予定であるのか。

【委員】

高齢者がよく集まる場所では、人数制限を行いながら、徐々に実施する予定である。

【委員長】

リーダーの現状はどうか。

【委員】

スポーツ協会でもリーダーの勉強会が開催されているが、スポーツ推進員でも指導者に興味がある人しか参加されない。

【委員長】

リーダー育成は今後の課題であろう。

【委員】

若い方は仕事や生活があるので、難しい。

【委員】

基本方針2についてだが、田舎の方では、高齢になっても田んぼや畑で動いておられるので、わざわざ運動する場に出てこないこともある。地域特性によりスポーツへの参加率も変わるだろう。30代から40代の働く世代は意識的に参加に向かないと思われる。そういった層の参加を促すためには、個人だけでなく子どもを含め家族で参加できるようにしていればいいのではないか。

【委員長】

基本方針3の課題として、優良事例の把握と全体化が必要であるとまとめられているが、優良事例をいくつか示すことができるのか。

【事務局】

草津市が「健幸都市」を宣言した際には、全まちづくり協議会で健幸宣言を行ったり、学区体育振興会においても様々な取組を行っていただいている。団体アンケート調査でも活動実態の把握を行う予定であり、次回以降に結果をお示しできればと思う。

➤ 基本方針4 競技スポーツの推進

【委員】

スポーツ少年団の支援とあるが、どこまでの支援が必要なのかという問題がある。小学校でも中学校でもそうだが、民間のクラブに行く子どもも多く、学校体育はどのようになるのか。スポーツ少年団に引き継いでいるところがあるのか。

【委員】

中体連で言えば、連盟との兼ね合いといった問題もある。種目により特性があり、中には、地域スポーツクラブに入っていると中体連の部活に参加できないと定められているところもあるので、統合するのは難しいだろう。

中体連は全国組織であり、全国から考え方を変えていかないといけないだろう。スポーツクラブをやめて学校の部活に入る、逆もある。

【委員】

クラブや学校の部活で子どもの取り合いになってしまうのではないか。支援したくてもどう支援していいかわからなくなる。

また、小学校給食の問題だが、小学校の給食で、塩分を控えめにして体力がどこまで上がっているのか。

【委員】

子どもの体力は向上しているが、それが給食の結果かどうかはわからない。給食は全体的な栄養を考えて作られている。

【委員】

滋賀県民大会の得点は年によって違い、仕事をしている人が休みで参加してもらおうと強

い。エースがいない年は点数が低いといった問題がある。

【委員長】

今後の取組として、選手の発掘・育成に加え、競技団体のマネジメント的な役割の育成も含める必要があるだろう。

【委員】

種目によっても違うが、ソフトテニスなどは中学生から競技を始めても遅く、小学校の間に運動神経を伸ばしていく必要がある。一方、筋力は15歳以上から強化するものであり、適切な時期に適切な指導を行うと、子どもたちの競技力も伸びていくので、指導者の育成が必要である。

【委員長】

運動神経については、様々な経験をすることで小脳にプログラムが蓄積され、前頭葉からの指令により、プログラムを瞬時に抜き出すことで、動作が出来上がる。そのためには、子どもの時にいろんな種目を経験して、プログラムをいかに溜めるかが運動神経の向上につながる。遊びを通して、運動を通して学ぶことが必要である。

【委員】

第2期計画では指標を方向転換する必要があるのではないかと。得点は、競技の結果でしかないもので、競技スポーツの推進につながるか疑問である。子どもの体力は向上しているものの、競技への関心や運動好き、運動を続けていこうという意欲はまだまだ低い。点数は指標としてはすぐわないように思う。また、国スポに向けてターゲットエイジという言葉がよく使われているが、それだけにとらわれないような指標が必要である。

【委員長】

第2期計画では、目標値の設定の仕方についても検討が必要であるということであるが、事務局もそういったご意見をお持ちのようだ。

競技力向上については、県が担うことと、市町が担うことの区別が曖昧である。ターゲットエイジに関しても県が取り組んでいるところも多い。県もスポーツ推進計画を策定されているが、実際に子どもを対象としているのは市なので、市の数値の方が重要かと考えている。

➤ 基本方針5 スポーツ環境の充実

【委員長】

市のスポーツ施設は未だにスマホで予約できない。文化施設も含めて一本化していくことで、違った環境づくりができるのではないかと。第2期計画では、ホームページのアクセス数だけではなく、違った視点も必要ではないかと。

【事務局】

いただいたご意見は次回資料に反映していく。

②第2期スポーツ推進計画の方向性について

【事務局】

資料3に基づき説明

【委員長】

「レガシー」という言葉が出てくるが、事務局はどういう意図で使われているのか

【事務局】

「レガシー」という言葉は、遺産という意味があり、国スポ・障スポの開催に向けてみんなで頑張ってきたものを、大会が終了後も良いところを残していこうという意味で、「スポーツレガシー」という言葉が国や県でも使われている。国スポなどの大会の開催に当たっては多くのボランティアの支えがあったり、高いレベルの競技を見るという楽しみ方もあり、従来は、自分たちが楽しむことに主眼を置いてきたが、「する」「みる」「ささえる」といったスポーツの多様な価値観を国スポ・障スポを契機に拡大していくことを考えており、そこで生み出される良い遺産を今後も引き継いでいきたいという思いで「レガシー」という言葉を使っている。

【委員長】

レガシーという言葉が出てくる前は、スポーツ文化という言葉が使われていた。「する」「みる」「ささえる」をあわせて、スポーツ文化の発展と言っていたが、オリンピック等の開催にあわせて、スポーツレガシーという言葉で整理されている。

【委員】

国スポは予定通り令和6年に開催されるのか。

【事務局】

令和6年の開催に向けて滋賀県内各市町で取り組んでいるところであるが、開催予定であった鹿児島国体が今年は開催されないことになり、今後の国体の開催について協議・調整が行われることになっている。滋賀県での開催は令和6年になるのか、1年延期になるのかはまだ決まっていない。いずれにしても、計画期間中に開催されるので、開催に向けた取組を計画の中に位置づけて進めていきたいと考える。

【委員長】

国スポ・障スポ終了後も、レガシーを継続させていくような計画を策定しましょうということである。

国スポの少年の部の対象は高校2年、3年生であるので、逆算すると現在の中学2年生、3年生に当たる。青年の部は高校生であり、市ではどうにもできないので、中学生にいかに関与していくかを考え、第2期計画の構成案を見ていただければと思う。

➤ 1. 子どもの体力向上とスポーツ活動の推進

【委員長】

スポーツ少年団の活動の充実の中で、マネジメントが重要だというご意見があり、今後キ

ワードとして、アンケートでも把握できればと思う。

➤ 2. 生涯スポーツ活動の推進

【委員長】

「する」「みる」「ささえる」スポーツの参加促進が新規の取組としてあがっているが、国スポ・障スポにおいても草津市でいくつかの種目の開催が予定され、裏方としてバックヤードで様々なささえる活動が必要になる。駐車場の整備、仕出しなどは地域住民の力が必要で、過去の大会でも、特にマイナー競技は特に手厚くサポートされているようである。

【委員】

高齢になると、「ささえる」のボランティアとしての参加になってくる。

【委員長】

身近なスポーツイベントの充実が上がっており、イベントには予算が必要であるが、事務局としてどのように考えているのか。

【事務局】

現状で、予算を拡大していくことは難しいので、今ある予算の中で工夫をしながら進めていくことになる。第1期計画では、生涯スポーツでいえば、高齢者にターゲットをしぼったり、「する」ことに主眼が置かれていたが、若いうちからどう運動するかなどターゲットを変えるなど、今ある予算をうまく活用できればと考えている。

現状のイベントについては引き続き継承していくよう予算を確保したい。

【委員】

健康推進員も年齢が上がってきているので、「ささえる」方にまわり、健康推進と生涯スポーツの関わりを充実していくことになるだろう。

➤ 3. 競技スポーツの推進

【委員長】

競技スポーツの推進の中に、障害者スポーツの推進を盛り込むかどうかについては検討する必要がある。果たして、市町レベルで推進できることがあるのかどうか。

【委員】

スポーツ協会では、障害をお持ちの方に理事に就いていただき、障害者スポーツを今後どのように進めていくかを勉強していきたいという段階である。

【委員長】

例えば、一般社団法人滋賀県バスケットボール協会に、障害者のバスケットボール関連の事務局は加入しておらず、別組織で運営されている。国スポには、知的障害の種目もあるが、県立障害者福祉センターでマネジメントされている。競技団体によっては、県の団体の下に市町の団体が入っているが、障害者の団体をマネジメントしているのはサッカーぐらいかと思われる。そのため、市として障害者スポーツの推進を盛り込んでも評価しにくいのでは

ないかと思われる。

【事務局】

みんなが楽しむという意味で、昨年度、障害者団体がボッチャ大会を開催し、障害のある人もない人も一緒に楽しみながら交流を行った。そういった意味では、生涯スポーツの推進の要素が強いようにも思うので、ご意見を踏まえて検討する。

【委員長】

今後、市立プールが整備されれば、障害者の全国大会の誘致も課題として出てくるかと思われる。

➤ **4. スポーツ環境の充実**

【委員】

企業等管理施設の有効活用とあるが、実際に草津市民に開放されている施設はあるのか。

【事務局】

パナソニックのグラウンドは草津市民に限らず一般開放されている。それ以外の企業の施設はセキュリティの関係で敷地に入れられないということがあり、活用されていない。また、立命館大学は新しくできたプールや体育館を地域交流のために解放されている。

【委員】

学校体育施設は競技団体の取り合いになっている状況なので、企業等の施設を利用できれば分散することができるだろう。市としても積極的に推進していただきたい。

【委員】

ダイキン工業もグラウンドを解放されている。そもそも体育施設を保有している企業が少ない。

【委員長】

「企業等管理施設の有効活用」は、「企業・大学管理施設の有効活用」とした方がいいのではないか。

【委員】

草津市は、スポーツ施設は結構あるものの散らばっており、一か所に集中していない。1か所に集まった総合スポーツ施設があればもっと見る人も増え、人が集まることでスポーツを通じたまちづくりにつながり、魅力のある町になるのではないか。

【委員長】

体育館とプールが横並びで整備されるので、どう賑わいをつくっていくかが重要になる。

【委員】

スポーツ推進員も高齢化してきたが、人数は多いので、何かするときは出てきてくれる人も多く、そういった意味では充実していると思う。

➤ **5. スポーツによる地域の活性化**

【委員長】

国スポ・障スポを契機とするスポーツレガシーの創出ということで、国スポが終わっても、ムードが消えることなくやり続け、新しい仕組みをつくりましょうということである。新しい指導者やリーダーの育成をいかに担っていくかである。

また、スポーツ観戦機会の充実は非常に大事である。小学生や中学生の大会でも開催日程を住民に見えるようにしていくと、応援や観戦者も増えるのではないか。子どもたちが応援に来てくれた方のためにパイプ椅子を並べるとそれが社会勉強にもなる。観戦機会の充実の中で、そういったことも今後議論していければと思っている。

【委員長】

全体として、先ほども障害者スポーツの推進についての考え方は少し議論が必要という提案をさせていただいた。

何かあれば、2～3日以内にご意見をいただきたい。

(2) 草津市のスポーツの推進に関する市民アンケート調査について

【事務局】

資料4～9に基づき説明

【委員長】

スポーツ競技だけでなく、体を動かすといった運動についても回答できるように、注目してご意見をいただきたい。

市民アンケートのこの1年間に行った運動やスポーツの選択肢については、体操やウォーキングなど高齢者が行っているものを最初に持ってくるなど回答しやすいような工夫が必要である。

【委員】

小・中学生アンケートの対象は、小学校5年生、中学校2年生でないといけないのか。

【事務局】

全国体力テストの対象学年にあわせて行っている。例年であれば、体力テストの結果と比較ができるが、今年度は全国体力テストが中止になったので、この年代にアンケートを行う必要があると考えている。

【委員長】

新型コロナウイルスで3か月の間運動出来ていないので、その影響をどうするのか。

【事務局】

調査票の上段に新型コロナウイルス流行前のここ1年くらいの状況を答えていただくよう、注意書きを付している。

【委員長】

もう少し目立つように書かれてはどうか。

5. その他

第2回審議会は、8月26日（水）19時

6. 閉会

【居川部長】

本日は、長時間にわたりご審議をいただきありがとうございました。

委員の皆様方には、大変貴重なご意見を多くいただき厚くお礼申し上げます。

本市では、スポーツを通じた健康づくり、2024年開催予定の国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会の開催に向けた競技力向上や施設整備など、本市におけるスポーツに対する機運を一層高めていく必要がございます。

本日いただきましたご意見を踏まえながら、第2期草津市スポーツ推進計画の策定に向けて取り組んで参りたいと考えておりますので、引き続き、御支援、御協力をいただきますようお願い申しあげ、閉会の挨拶とさせていただきます。